

矢作川水系伊賀川

Yahagigawasuikei IGAGAWA



N34度57分39秒 E137度9分30秒
(34.961,137.158)

緑あふれる、川になる。

平成20年8月末の豪雨で床上・床下浸水が発生したことから、その対策を行うにあたり、近隣にある岡崎城等の文化や景観、親水性、自然環境に配慮した川づくりを目指しました。多自然川づくりアドバイザーからの助言をもとに、川幅を極力広く確保することとし、①低水路・低水敷(※1)・高水敷(※2)と多様な空間を創出、②遊歩道やスロープを直線的ではなく曲線で構成、③護岸(※3)は既存の石積擁壁材も一部再利用した石積護岸の採用、④桜並木の保全などを行いました。低水路幅も広く確保し、みお筋(※4)の自由な蛇行を促すとともに、護岸前面に寄せ土を行い、低水護岸の露出を抑えています。

その結果、低水敷には植物が繁茂し、水際植生があることで魚類の餌場や産卵場などになることから、稚魚や仔魚なども多く確認されるようになりました。また地元市などと協力して高水敷の管理などを行っており、地域に親しまれる緑豊かな川になっています。

※1 普段川の水が流れているところ (=低水路)。

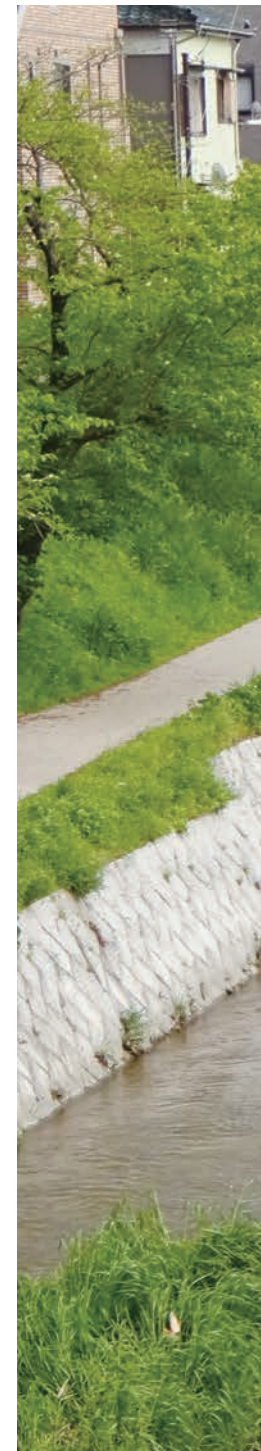
※2 常に水が流れる低水路より、一段高い部分の敷地。

※3 川岸が川の流れによって削られるのを防ぐために設ける施設。

※4 川の中で、普段の水が流れる主な川筋のこと。



Before



After

